

學 藝 新 聞

第23号 2023年(令和5年)7月20日発行

発行元

海外修学旅行	1・2
高等学校	3
輝く人(卒業生)	4
輝く人(在校生)	5
附属中学校・ボランティアサークル	6
国際科	7
硬式テニス部・ソフトテニス部	8

学校法人 大阪学芸
 大阪学芸高等学校
 大阪学芸高等学校附属中学校
 〒558-0003 大阪市住吉区长居1丁目4番15号
 TEL.06-6693-6301 FAX.06-6693-5173



高校2年生は、今年10月に海外修学旅行(国内コース含む)を実施します。

「イタリア」「シンガポール」「バリ島(インドネシア)」「ケアンズ(オーストラリア)」「北海道・東京」の5コースで、4月より少しずつ準備を進めています。

本校では毎年、2年次に海外修学旅行(国内も選択可)を実施してきましたが、新型コロナウイルスの影響で2020年度は修学旅行自体が中止となりました。また、2021年度と2022年度は行き先を国内のみに変更して実施しました。しかし、制限が緩和された今年度、4年ぶりにいよいよ海外への修学旅行が復活します。

時期について、今年度は従来の5月実施を延期し、10月に実施することになっています。4月20

日(木)、全コース一斉に第1回目の事前学習を行いました。その後は、必要に応じてコース毎に部屋割りや班決め、海外渡航手続きを進めています。今後は、行程の把握、服装や持ち物の確認、自主研修の計画作成、空港・飛行機内・ホテルにおけるマナーの習得、訪問先の国や施設に関する歴史と文化について学習します。また、修学旅行を安全で楽しいものとするための集団行動の心構えとして、時間を守ること、話を聞く姿勢や場に応じた服装について意識することなどに関して厳しく指導しています。この修学旅行が生徒たちにとって一生の思い出になることはもちろん、見聞を広め、体験を積み、成長する機会となることを期待しています。

海外修学旅行が復活!



高等学校

5つのコース

楽しく・学び・体験する

イタリア

コース



イタリアコースはヴェネツィア、フィレンツェ、ローマといった主要都市を周遊し、代表的な観光名所を訪れます。ヴェネツィアでは、大聖堂「サンマルコ寺院」を見学し、ゴンドラに乗って運河を巡ります。フィレンツェでは、ルネサンス絵画で有名な「ウフィツィ美術館」を見学し、市内にて班別自主研修も行います。ローマでは「コロッセオ」や「バチカン市国」の見学の他、B&S (ブラザー & シスター) プログラムに参加し、現地大学生に市内を案内していただく予定です。



シンガポール

コース



シンガポールコースは、シンガポールのシンボル「マーライオン」、トラムに乗車し夜行性動物を見られる「ナイトサファリ」、多民族国家ならではの雰囲気味わえる「リトルインディア」、「ユニバーサル・スタジオ・シンガポール (USS)」など、シンガポールを代表する観光スポットを訪れます。また B&S プログラムにも参加し、現地学生とともに市内を巡ったり、シンガポールのメインストリート「オーチャード・ロード」にて班別自主研修を行ったりする予定です。



バリ島

(インドネシア)コース



バリ島 (インドネシア) コースは、まずバリ島で最も美しい寺院と言われている世界遺産「タマンアユン寺院」を見学し、伝統芸能の「ケチャックダンス」を鑑賞します。また、現地の学校を訪問し、文化交流を行います。リゾートホテル「グランドミラージュ」におけるアクティビティにも参加、最終日には美しい棚田で有名な「テガララン・ライステラス」を訪れます。



ケアンズ

(オーストラリア)コース



ケアンズ (オーストラリア) コースは、まずキュランダ鉄道に乗車し、様々な体験ができる熱帯雨林テーマパーク「レインフォレストেশョン」に向かいます。その後、ファームステイ先のホストファミリーと対面し、ピクニックやショッピングなど、ホストファミリーと共に、約2日間のオージー生活を体験します。最後にグレートバリアリーフに位置するリゾートアイランド「グリーン島」で、様々なアクティビティを行います。

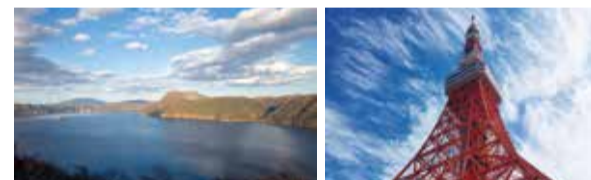


北海道・東京

コース



北海道・東京コースは、まず北海道の網走に向かい、「網走監獄博物館」や「オホーツク流水館」を見学します。また、知床や釧路の様々な施設や観光名所にも訪れます。小樽にて事前にたてた計画をもとに班別自主研修を行った後、東京へ向かいます。東京では「東京ディズニーリゾート」で1日を過ごし、最終日には都内や横浜にて、再び班別自主研修を行う予定です。



※いずれのコースにおいても、今後の状況により行程の変更となる場合があります。

今年度に入り、高校第2学年は、4月に始業式・学年オリエンテーション、5月に第1学期中間考査、6月にスポーツ大会と行事を進めてきました。学年オリエンテーションでは、2学年のこの時期がいかにか重要であるかを中心に、管理職、生活指導部長、進路、学年より講話を行いました。

良くも悪くも学校生活に慣れ、ややもすると学習面や生活面などで緩みがちになる時期です。しかし、最終的に、希望進路を獲得する生徒の多くは、生活習慣や学習習慣など受験に必要な土台となる基礎力を1・2年次で身につけています。生活習慣を整えることで学校生活にきちんと向き合っていくという信念のもと、1年次同様2年次について

も、毎月の生活点検や日々の朝の立番で生徒たちの様子を確認しています。広く安定した土台ができてこそ、授業への姿勢は前向きになります。生活を整えた上で、授業は集中して受ける(理解)、家庭学習により復習する(定着)、この「理解と定着の繰り返し」によって、学習サイクルを身につけることができます。すべてはこの積み重ねから始まることを忘れずに、日々の過ごし方を考えてほしいと思います。そして、高校2年生として、未来へ向けて自分自身とじっくり向き合いながら、「今自分は / 自分たちはどう行動すべきか・何をやるべきか」を考えてほしいと願っています。早い段階で具体的な目標をもち、将来の自分をイメー



ジできるように、進路について考えていきましょう。家庭学習は、平日2時間・休日3時間を目標に、今まで家庭学習の習慣がなかった人はまずは30分から始めて継続してください。

クラブ活動においては、高校2年生が活動を牽引する立場になっていきます。先輩たちから学んだことを引き継いでいく中で、責任も生じてきます。部員同士の価値観や考え方の違いに悩むことも少なくないと思いますが、それもクラブ活動をしているからこそその経験であり、ひととして大きく成長する場になることと信じています。



受験シーズン到来!



いよいよ受験シーズンに入った高校3年生に向けて、4月8日（土）に進路指導部から「受験生の心構え」について、学年主任からは「3年生としての心構え」について話をしました。「生活習慣が身に付いてこそ、初めて受験に目を向けられるということ」「受験で成功する生徒の多くが学校に休まず登校し、最後まで挑戦していたこと」など、昨年度の卒業生の成功事例をもとに語りました。今年度は受験者数が近年で最も少ない年であり、浪人生も少なくなっているため、最後まで諦めずに挑戦をすれば難関大合格も夢ではありません。そのためには入念な準備を行い、日々の生活リズムを整えることが大切であることを伝えました。



大学入試突破に向けて～夢実現のために～ 近畿大学入学センター屋木清孝先生にご講演いただきました!

5月25日（木）6限、高校3年生を対象に進路説明会を実施しました。この日は近畿大学入学センターの屋木清孝先生をお招きし、「大学入試突破に向けて～夢実現のために～」というテーマで約45分間講演していただきました。先生は、受験に強い生徒（伸びる生徒）の共通点は「上から＝将来の夢からモノを考える人」「ゴールから逆算して行動を起こす人」だと強調し、「なりたい」を超えて「やりたい」まで到達するためには、どの大学のどの学部・学科の学びと研究が最も「やりたい」ことに近づけるのかを考えることで

あるとおっしゃいました。そして、近い将来にある大学受験を突破するためには「現在通う高校で授業をしっかりと聞くことが最低必要ラインであり、その次に必ずなすべきことが受験校対策である」と伝えてくださいました。「最後まで諦めず、目標達成のために努力を惜しまないこと」を締めのお言葉として、講演は終了しました。人を惹きつける魅力的なお話ぶりの中、クイズを交えながらの講演で、笑いもありつつ、本質をしっかりと伝える内容構成であり、生徒たちも集中して聴講していました。生徒たちの感

想からも、「楽しく、話が理解しやすかった」「モチベーションがあがった」などが多く寄せられました。

次の進路企画は7月12日（水）～14日（金）の放課後に実施する、日本ドリコム主催の大学入試説明会です。今年で4年目となるこの企画は、生徒たちから事前に進路希望調査をとり、上位に挙がった志望校から順に依頼をかけていただき、開催しています。学校に居ながら夏前に最新情報が入手できる最大のチャンスを有効に活用していただきたいと思います。



総合探究で課題を発見!



高校1年生の入学から3か月余りが過ぎました。高校を卒業するまでの道のりはまだまだ長いとはいえ、高校生活の9分の1地点まで来たと考えると、時の経つのは早いものだと改めて感じます。

年度初めの学年集会で、「当たり前のことを当たり前にする」という話をしました。当たり前のこととは、例えば「挨拶をする」「時間を守る」「身だしなみを整える」「整理整頓をする」です。毎朝校門に立ち、生徒たちを迎えています。元気に挨拶を返してくれたり、自発的に挨拶をしてくれたりする姿を見ると大変嬉しく思います。しかし一方で、入学当初は全員身だしなみがきちんとしており、8時30分を回って登校してくる姿を見ることはなかったのに、残念ながら、リボンやネクタイの着用がルーズになってきたり、8時40分ギリギリに登校したりする姿がちらほら見られるようになりました。生活習慣はちょっと気を抜くだけですぐ悪くなりますが、良くしようと思うとかなりの努力が必要になります。初めにできていたことが今はできないというのはおかしいですね。良い習慣を維持している人は是非継続してほしいし、ちょっと気

を抜いてしまった人は改善してほしいと思います。

これから将来、大学生、また社会人になり、多くの人と出会うことになります。人への印象を決定づける考え方のひとつに、メラビアンの法則というものがあります。メラビアンの法則とは、アメリカで活動する心理学者のアルバート・メラビアン氏が提唱したものです。これによると、話をする際に相手に伝わる情報として、話の内容自体が7%、声の大きさやトーンに関するものが38%、そして見た目からの印象が55%を占めるとされています。またハロー効果と呼ばれるものがあり、これは、良い部分が目立つ人はその他の部分も好印象に見え、逆に悪い部分が目立つ人は他の部分も悪く印象づけられてしまう、というものです。まず身なりをきちんと整えることで相手に好印象を持ってもらい、ひいては良い関係を築くことができます。やろうと思えば誰にでも簡単にできることなので、ぜひ常に心掛けてほしいと思います。

さて、現在週に1時限、総合探究の時間にSDGs（持続可能な開発目標）について考えています。世界的な社会問題に触れ、それらを考えることで、自ら「探究につながる問い」をつくる練習をしています。これまで、あるテーマに対して多くの資料をまとめ、クラスメイトの前で発表するという活動はした経験があると思いますが、総合探究はそれだけにとどまることなく、「すでにある情報を調べた」上で、そこから「新たな課題や問題を発見」し、「さらに調べる」ことに主眼を置いています。科学の進歩とグローバル化で、生徒が大人になる頃には、社会は今以上に目まぐるしく変わっていくことでしょう。周りに多くの情報があふれる中で、誤った情報に振り回されることなく、必要な情報を見抜く力も重要になってきます。そのような社会を生き抜くためには、身につけた知識や技能をもと



にして、自ら考え、どう行動するか選択することが求められます。この総合探究を通して、自ら課題を発見し、その課題の解決策を考える過程を通して更なる知識や技能を身につけ、思考力・判断力・表現力を磨き、これからの社会に必要なとされる力を身につけてほしいと願っています。

2学年に進級するにあたり、この1学年で「文理選択」を決めていかなくてはなりません。「自分の将来就きたい職業は何なのか?」「将来、学びたい学問は何なのか?」を元を選択していくことになりますが、高校生になったばかりで将来の目標がまだ明確になっていない人も多いと思います。年に5回ある進路ホームルームや進路指導部主導のもとに実施される各種イベントに参加することによって、文理選択をするためのヒントが多く得られます。誰のものでもない自分自身の人生です。悔いのない選択ができるよう、また自分の選択に責任を持てるよう、指導していきたいと考えています。生徒が悩んでいたら、保護者の方も一緒に考え、アドバイスをさせていただけたらと思います。



卒業生の活躍



諦めない道の先に 目標と夢を見据えて

地域医療支援病院として専門医療、救急医療などの役割を担う職場にあって、患者の方々の一日も早い社会復帰を目指して日夜職務に奮闘しておられる富永さん。今回、ご多忙な日々の合間を縫ってインタビューに応じてくださり、さらに手術中の貴重なお写真もご提供くださいました。



とみなが こうすけ
富永 孝亮さん

▶ **現在のお仕事に関わるために努力したこと・苦勞したこと**

高校在学時は文系コースだったため、入学試験に必要な理系科目を独学しなくてはいけなかったことです。高校卒業後も予備校に通う必要がありました。

▶ **現在のお仕事に関わるために必要な知識・技能・資格**

外科医には人体の解剖学の知識や手術を行う技術が必要とされます。また患者さんに安心して手術を受けていただけるように信頼関係を築くことも、医師として必要とされる能力です。

手術は必ず成功するわけではなく、失敗がなかったように見えても、例えば出血や感染症などの想定外のトラブルが起こるおそれがあるため、術後も慎重に経過を見る必要があります。経験や慎重さが必要とされ

ますが、目に見えない技能のようなものと考えます。手術をして終わりではありません。

資格は医師免許ですが、医学部に入学、卒業した後に国家試験をパスする必要があります。

▶ **現在のお仕事の魅力・やりがい・苦勞について**

命の危険にさらされていた患者さんが、治療後快方に向かう様子を見ると、やりがいを感じ、外科医であり続けたいとの思いを新たにします。夜中の緊急手術の疲れも忘れることができます。

苦勞はその裏返しで、辛い出来事も常に隣り合わせにあるため、結果がよくないと心底辛くなります。

▶ **将来の目標・夢**

手術をするだけが医師の仕事ではないので、手術の技術だけでなく、人間としての能力を高めることが目標です。

夢は一人でも多く救命すること、そして患者さんの社会復帰を支えさせていただくことです。

▶ **在校生へのメッセージ**

諦めずに歩いてきた道の節目に、医師として働く現在の自分がいます。自分の掲げる夢が実現する節目にいつか必ずたどり着くことができると信じ、これからも諦めず歩いて行こうと思っています。皆さんも、目標に向かって自分を信じて頑張ってください。諦めなければ必ずできるはず



▶ **現在の仕事について**

私は手術を主な治療方法とする外科、その中でも一般外科（消化器外科）を選択し、勤務しています。

▶ **どのような高校生活を送っていたか**

残念ながら、遅刻と欠席が目立つ、真面目とは言いがたい学生生活を送っておりました。勉強も中途半端だった記憶があります。

▶ **現在のお仕事を目指したきっかけ**

家族に医師がいたので、高校入学時から漠然と医師になりたいとは思ってはいましたが、高校卒業後に改めて医師になりたいと思い現在に至ります。

プロフィール

大阪学芸高校 2004年3月卒業

卒業後の学歴:

2019年 福岡大学医学部医学科卒業

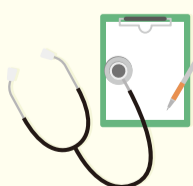
職歴:

2020年 佐田病院 研修医

2021年 九州大学病院 研修医

2022年 福岡大学病院 消化器外科入局

2023年 白十字（はくじゅうじ）病院 外科勤務





「諦め」？ その言葉、自分にはありません！

パラアイスホッケーの中心選手として、世界大会、そしてその先のパラリンピックを目指す伊藤さん。ホッケー愛あふれる熱い心で、自らの目標、日本パラアイスホッケーの課題と展望について語ってくれました。



高校 3年

いとう いつき
伊藤 樹さん
(パラアイスホッケー)



▶ 現在の活動について

世界選手権出場選手選考を兼ねた日本代表合宿参加に向けてトレーニングしています。世界選手権に日本代表として出場できるのは17名。ここで代表に選ばされると、今年10月7日（土）～13日（金）カザフスタンで開催予定のWorld Para Ice Hockey CHAMPIONSHIP B-Poolに出場することになります。

ちなみに自分は中学1年生からずっと代表に選ばれ続けています。

▶ アイスホッケーを始めたきっかけは

幼稚園年長組の時に、知り合いに誘われて健全者のアイスホッケーを始めました。小学3年生の時に交通事故に遭ってから、脚に障害のある人が参加するパラアイスホッケーを始めました。なので、アイスホッケー歴は長く、トータルで12年目、パラに移ってから8年目になります。アイスホッケーは健全者もパラもコートサイズやルールに差異がなく、違いは選手が立って動くか座って動くかだけなので、移ることに何の苦勞もありませんでした。

▶ アイスホッケーを続ける中で

アイスホッケーを続けてきて良かったと思え



ることはたくさんあります。

まず、アイスホッケーを通してポジティブになれたことです。海外各地に遠征できますし、人脈もどんどん広がっています。自分は本当に良い環境に生まれたこと、ホッケーのおかげでとても楽しい人生を送っていることを実感し、アイスホッケーに出会えたことに感謝しています。

この幸せな環境のもと、外国との試合で点を決め、自分の成長が自分で分かる時、本当に嬉しくなります。日本代表を背負うことができるのも最高に嬉しく、幸せを感じるこのひとつです。

つまり、アイスホッケーに関わっている時は常に嬉しく幸せな時間です！

もちろん、辛いこともあります。

ボディコンタクトの激しいスポーツなので、相手から強いチェックをもらった時は物理的にも心理的にも痛いですし、試合に負けた時には本当に辛くなります。

そしてこれは辛いというより検討すべきことなのですが、現在、日本代表レベル選手の中に、自分と同年代（10代）の選手がいません。代表選手の多くは30代、最年長は49歳です。若手や次世代の育成強化に努めないとチームが強くなっていかないと、少し危惧しています。

▶ 学業との両立は

万全な体調があってこそ、学業にもアイスホッケーにもしっかり取り組めると自覚しています。普段の練習場が自宅から遠く、家族に送迎してもらっていますが、帰宅すると遅い時間になることもあるので、十分な睡眠とバランスのとれた食事に気を付けています。特に朝食は重要です。

授業に関する課題はこまめにチェックし、提出等完璧を目指して取り組んでいます。

▶ 将来の目標と夢は

アイスホッケー競技において世界No.1プレイヤーになること。

パラリンピックで日本チームが金メダルを獲ること。

自分を含めた選手みんなの努力と活躍によってアイスホッケーを身近なスポーツにすること。

夢は大きく聳えています。それらを現実にするために、まず今年目標として掲げるのは、最初に述べた10月開催予定の世界選手権B-Poolにおいて優勝し、大会MVPを獲得することです。

B-Poolで1・2位の国のチームがA-Pool最下位2国チームと入れ替わり、A-Poolに上がります。

2025年の世界選手権においてA-Poolで5位以内に入ると、選考会を経ることなく2026年パラリンピック出場が確定します。

これを目指したい。

最新国別ランキングを見ると、1位・アメリカ、2位・カナダ、3位以下が順にチェコ、中国、韓国、イタリア、ノルウェー、ドイツと続いています。1位のアメリカが群を抜き、かなり離されているもののカナダが頭ひとつ抜けていますが、3位以下は実力に大きな差がなく渾沌としています。この渾沌に日本が食い込みたい。

センターとしてチームの司令塔を担う自分の頑張りどころでもある、と自負しています。



附属中学校

新1年生、入学式



4月5日(水)、堺市にあるフェニーチェ堺にて入学式が行われました。新中学1年生 68名が緊張した面持ちで式に臨みました。一日も早く学校生活に慣れて楽しく過ごすとともに、一日一日を大切に、中学3年間で大きく成長してほしいと願っています。



中1宿泊研修(中学1年生)



昨年度まで行っていた青少年海洋センターから場所を変え、今年度は、滋賀県高島市にある奥琵琶湖マキノパークホテル&セミナーハウスで研修を行いました。

昨年度と同様、初日の4月19日(水)は朝に雨が降っており、心配していました。しかしバスが北に向かうにつれて雨脚が弱くなり、研修会場に着いた頃には雨はすっかりあがっていました。ただ、雨はあがっていたものの、湖岸のビーチ近辺が水を含んだ状態だったため、良い景色を眺めながら昼食を食べることができなかったのは少し残念でした。

昼食後の1日目午後の最初の活動では、カヤック体験を実施しました。ライフジャケットを身に付け、シングル&ペアのカヤックに乗り込んで琵琶湖に出ました。最初はおそろおそろパドルを漕いでいましたが、10分もすると漕ぎ方にも慣れ、沖に浮いている赤いブイのそばまで楽しく行く生徒が大勢いました。途中からシングル&ペアを入れ替え、最終的にはインストラクター引率のもと全員で沖合までツーリングに出かけるまでに上達していました。豪快に漕ぎすぎたせいで、まるでUSJに行ったかのようにビショ

ビショになっていた生徒もいました。

2つ目の活動では、陸に上がり、バームクーヘン作りを行いました。ほとんどの生徒が未体験(全員だったかもしれません)であり、「本当にバームクーヘンが作れるのか」という不安の表情ばかりでしたが、説明を受け、いざ作り始めると、思いのほか上手に作る事ができていました。中には非常に凝る生徒もいて、「店に出しても大丈夫なのでは?」と思わせる出来栄のバームクーヘンを作っている班もありました。最後は出来上がったバームクーヘンを指導者の方に切ってもらい、全員で美味しくいただきました。

夜のミニホームルームでは、教頭先生から「iPad使用のルールについて」の説明を受けました。その後、次の日のカレー作りに向けての作戦会議をしました。作ったカレーが2日目の昼食になるということもあり、どの班も真剣に役割分担や作り方を考えていました。

そして2日目。6時30分起床の後、7時に集合してトレーニングを行うという予定になっていました。例年のことであれば集合時間に遅れ、遅刻指導される生徒が出てくるのですが、今年度の1年生は誰一人遅れることがなかったばかりか、全員が6時55分には集合場所に揃って座っていました。全員が時間を守ることができたのは本当に素晴らしいことです。

カレー作りについては、昨晚の作戦会議のおかげもあってか、失敗することなく全ての班が上手に作っていました。ただ、後片付けに関しては、自称「滋賀県で一番チェックが厳しい」という施設の方の言う通り、何回もやり直しになるという洗礼を浴びていました。「ええ、まだあかんのー」という生徒の叫びに対して、施設の方は冷静に鍋をチェックして「この所にまだカレーの汚れがあるよね」と指摘されていました。作って食べてあとは他人任せの終わりではなく、次に清潔な状態で使えるように片付けることの必要性について徹底指導を受けることも、生徒にとっては良い経験となりました。

今回の研修で何より良かったのは、怪我も病人も一人も出なかったことです。昨年度までに比べ、バスでの移動時間が大幅に増えたため、途中で体調不良を訴える生徒が出てくるのではと心配をしていましたが、全くの杞憂に終わりました。また、宿泊研修の活動を通して、生徒同士がコミュニケーションをとり、仲間づくりの一步にすることができました。これからの学校生活を通してより良い友人関係を創造していくことを願っています。



第1回進路説明会(中学3年生)



4月17日(月)本館ホールにて、第1回進路説明会を行いました。副校長先生より配布された「高校進学のでびき」を使って、この1年間の高校受験までの流れの説明がありました。今年度受験する模試や高校入試のしくみ(専願・併願等)について、進路決定までの1年間の流れ(進学説明会、成績懇談、進路希望調査等)など詳しく説明がありました。生徒たちは気を引き締めながら、必要なところはメモを取り、真剣な表情で聞いていました。いよいよ「受験生」として始動し始め

た6期生。まずは普段の授業をしっかりと受け、定期考査に向けた準備を行うことで受験勉強に備えましょう。また、模試を利用し、中学1年生・2年生の内容を復習していくことが大切です。心身両面で大変なことが多くなると思いますが、受験を乗り越え、人間としてひと回りもふた回りも大きく成長していきましょう。



計算小テスト(中学全学年)



昨年度まで終礼時に行っていた「書き写し」・「朗読」に代わり、今年度からは週3回のペースで「計算の小テスト」を行っています。問題数は5問あり、約5分間で取り組んでいます。間違えたときにはやり直しを行うことで、自分の分かっていなかった所が見えてきます。やり直しの提出までがセットですので、しっかりと課題をクリアして実力をつけてください。数学の基礎力を身につけ、授業に役立てることはもちろん、模試や高校受験に活かしていきましょう。

ボランティアサークル

ボランティアサークル

本校は平成22年度よりセレッソ大阪とオフィシャルパートナー契約を結んでいます。同じ長居そして大阪市をホームタウンとする大阪学芸とセレッソ大阪は、オフィシャルパートナーとして、スポーツの振興や地域社会貢献活動、スタジアム内外でのボランティア活動を相互協力して実施することで、地域に信頼され、街の誇りとなることを目指します。



また、従来の「セレッソボランティア」に加え、令和2年度からは大阪国際交流センターが実施するイベント等の準備・運営サポートを行う「国際ボランティア」、学校周辺地域の清掃活動を行う「地域ボランティア」と活動の幅を広げています。

令和5年度の登録者数は、4月末時点で高校生175名(1年66名、2年51名、3年58名)、附属中学生6名で、今年度も意欲ある生徒たちが登録してくれました。



活動内容

- セレッソボランティア
セレッソボランティアは、大阪学芸高校とオフィシャルパートナーであるセレッソ大阪が実施する試合において、準備や運営のお手伝いをするボランティアサークルの柱となる活動です。
- 学校説明会補助生徒
- 国際ボランティア
- 地域清掃ボランティア



メキシコ交流
¡Bienvenido a Osaka Gakugei!
 (大阪学芸へようこそ)



5月25日(木)メキシコの私立学校(小・中・高校)であるアンデルセン・インスティテュートから97名の中学・高校生と教員およびガイド・通訳計13名が、文化交流のために本校を訪問されました。アンデルセン校の国外旅行として、東京・京都・大阪・広島を観光する12日間の旅の最後に、本校国際科生徒との交流会が設けられました。メキシコの公用語はスペイン語で、国民全体として英語を話せる人の割合は多くありませんが、アンデルセンの授業はすべて英語で行われているため、今回の交流における主な言語は英語でした。

メキシコ生は、まず食堂にて英語で作成したメニューから昼食を選び、「食券を買う」という日本独特の習慣を体験しました(唐揚げ丼が一番人気でした!)

食後は南館体育室へ移動し、交流会がスタート。森松校長とメキシコ代表者の挨拶の後、記念品を交換し、メキシコからは友好の盾とソンプレロ・デ・チャロ(つばの広い伝統的な男性用帽子)が贈られました。

そして、空手道部高校1年生の奥村宗司君・田井滉泰君・古瀬葉琉君が団体形の演武、高校3年生の竹内廉人君と松下煌汰君が組手試合を行いました。その迫力やスピードに皆圧倒され、会場は大きな拍手に包まれました。



次に、メキシコ生がスライドやビデオを使って「死者の日」(日本のお盆のように、家族や友人が集まって故人をしのび、生きる喜びを分かち合う伝統文化であり、毎年11月1日と2日に実施される)を紹介。また、民族舞踊を披露し、学芸生も加わって参加者全員でダンスを楽しみました。その後、本校高校2年A、C組のメンバーがスペイン語で挨拶した後、英語で日本や大阪の文化についてクイズ形式で紹介し、メキシコ生は元気に答えていました。

交流会後は、グラウンドに移動して記念撮影した後、学芸生ペアがメキシコ生ペアを案内して校内を探検。生徒達は、サイエンスラボ・花香庵・学校コンビニなどを巡りながら、打ち解けた様子で学校施設を紹介していました。交流の際、学芸生徒は高校1年A・B・C組作成のアンデルセン校名入り「推しうちわ」をプレゼントしました。メキシコ生からはたくさんのお菓子(とてもスパイシー!)や人形などをいただきました。

メキシコの生徒からは「是非この学校に留学したい」という声もあり、本校生徒からも「英語が通じて嬉しかった」「ダンスなど一緒に身体を動かして楽しかった」「英語力の重要性を感じた」など、日本・メキシコ双方の生徒にとって、実り多い交流となりました。



グローバルコース **高校2年生・国際交流授業**



今年度、国際科グローバルコースは設立2年目を迎えました。高校2年生は現在、バーチャル世界異文化探検へと出発しています。「国際理解」の授業では年間6回、世界の高校生とオンラインで交流する機会があります。事前にプレゼンテーションの準備をし、様々な国の高校生



とSDGs(持続可能な開発目標)などの問題について共に考え、解決策を提案しています。

5月26日(金)には、2年C組の生徒がミャンマーやマレーシアの生徒とオンラインで90分間交流しました。少人数のチームに分かれて、まず英語で互いに自己紹介をし、事前に準備した写真や動画を用いて自分のお気に入りのもの(ピアノやスケートボードなど)を説明しました。ミャンマーの生徒は、好きな歌手やアニメを紹介しました。ミャンマーでも日本の文化が広く浸透していることに、日本の生徒は驚いていました。次に、ミャンマー・マレーシア・日本の生徒が互いの国の文化に関するクイズを出し合いました。日本の文化である「七夕」について質問された日本の生徒は、英語での説明に苦戦しながらも、これまで培った英語力で、なんと

か相手に伝えようと頑張っていました。最後のフリータイムトーク

では、SDGsやジェンダーといった国際的課題についての話題も出ました。やや難しい内容ではあったものの、各自の考えについて自信をもって英語で伝えようとする姿が随所で見受けられました。

グローバルコースの生徒たちには、異なる文化的背景を持つ人々との交流を通して、異文化を理解し、英語力を高め、総合的なコミュニケーション力の養成に努めてほしいと望んでいます。そして、俯瞰的な視点で社会問題を見渡し、多様な考えを持つ人々と共同で問題解決に向かうグローバル人材に育っていくことを願っています。



悔しさを糧に 日々活動!! 日々感謝

硬式テニス部

色々な

硬式テニス部は、平日には学校本館6階のスポーツコートや長居庭球場、土日には河南町テニスコートを使い、中高・男女の別なくクラブ活動を行っています。

合同で練習を行っているため、部員同士の仲はとても良好です。加えて、中学生と一緒に練習することで、高校1年生のときから後輩が存在することができ、先輩としての自覚を早くから持つことができます。高校2年生になり、新入生が入部してきた際に、先輩とはどうあるべきなのか、どのように後輩に関わっていけばよいかについてすでに実際に経験し、考えてきているので、戸惑うことが少なくなります。導く立場として成長できるこの環境は、非常に大切なものとなっています。

これまでの戦績について、男子は「2022年度大阪高等学校春季テニス大会団体部」で大阪ベスト8進出、「2022年度大阪私立高等学校総合体育大会テニス選手権団体の部」で大阪6位、女子は「2022年度第3学区テニストーナメント団体戦」で3位といったものです。この戦績にたどり着くまでに、試合に勝てない悔しい思いを何度も経験しました。しかし、その悔しさを糧に、日々の練習で小さな努力を積み重ね続けることで、この結果にまで到達することができました。積み重ねることの大切さを学ぶことができるのもこのクラブの魅力です。

また、部の活動を通して、顧問の先生方、河南町に行くためのバスの運転手さん、保護者の方やOBの先輩たちといった多くの人の支えがあるおかげで、日々活動をすることができていることを実感し、周りの人への感謝の気持ちを持つことの大切さを学ぶこともできます。その方々の期待に応えるために、1つでも多く試合に勝てるよう日々練習に取り組んでいます。

5月に高校3年生の先輩方が引退し、私たち高校2年生がテニス部を率いていくことになりました。不安なこともありましたが、部員全員で協力しながら努力して高め合っています。

これから夏にかけて大会が続きます。個人戦・団体戦の両方で1試合でも多く勝ち、「今年の大阪学芸は強いぞ」と言われるよう頑張りたいと決意しています。皆さん、応援よろしくお祈りします。そして、この記事を読んで少しでも硬式テニス部に興味を持ってくれた人がいれば、遠慮なく体験に来てください!一緒にいい汗を流し、共に学び成長しましょう!!

硬式テニス部

男子部長 高校2年 杉田 亮
女子部長 高校2年 安廣 葉風



顧問

ソフトテニス部は、6年前に女子のみの同好会として活動を開始しました。3年前から男子も加わり、一昨年同好会から部に昇格した比較的新しいクラブです。女子も男子も近畿大会に出場することを目標に、日々練習を続けています。そのためには、男女ともに個人戦・団体戦両方でまずは中央大会にコマを進めることが必須です。現在の所、団体戦では一度しか中央大会に出場できていないので、チーム全体の技術力を上げられるよう、努力しています。団体戦は個人戦とは違い、チームの中にあって自分達の役割や責任を自覚して勝負に挑むという、団体戦ならではの面白さがあります。

私たちは、クラブのメンバー全員が思いきり元気よく、自分たちのテニスを追究することができるよう、全力でサポートし、応援し続けたいと思っています。

ソフトテニス部 女子高校2年生合同コメント

ソフトテニス部女子は、高校3年生8人、高校2年生4人、高校1年生7人が所属し、選抜特進コースから進学コースまでさまざまなコースの生徒が集まっています。私たちの目標は、まずチームとしてみんなで一生懸命に練習に励み、お互い切磋琢磨しながらテニスの技術を上げて、予選で勝ち上がり、大阪大会や近畿大会に出場することです。また、勉強とクラブ活動を両立させ、悔いのない高校生活を送ることで。

普段の練習は長居庭球場や本館・南館のスポーツコートで行っています。平日の放課後は2時間程度しか活動できませんが、その中でできるだけ多種にわたる内容の練習をこなし、またそれぞれの練習の意味と到達点を理解して真剣に取り組むことで、短期間でも技術が身につけられるよう集中して励んでいます。そして、練習の練習にならないよう常に試合を想定してボールを打つように心がけています。また雨の日は屋内でトレーニングをし、コートが使えない日はランニングをして、基礎体力や持久力の向上を目指しています。

私達2年生のほとんどは高校からソフトテニスを始めており、経験も自信もなく、先輩達が引退した直後は上級生として動けるかどうか不安でした。でも、やる以上はみんなで協力してチームの雰囲気を作り、チームをしつかりまとめ、公式戦で勝てるよう技術面も精神面も向上させたいと思い、日々努力しています。そして来年、クラブも勉強も頑張つてよかったですと言えるよう、全力で活動していこうと思います。

ソフトテニス部 男子高校2年生合同コメント

ソフトテニス部男子のメンバーは、高校3年生6人、高校2年生4人、高校1年生6人です。高校3年生が5月の中央大会で引退し、その後新体制で動き始めました。私たちの目標は近畿大会に出場することです。そのためまずは個人戦と団体戦両方で中央大会に行けるよう、日々練習を続けています。

私たちがクラブ全体を成長させるために練習以外で心掛けているのは、練習前の準備や練習後の後片付けを丁寧に行い、テニスコートでのマナーに気をつけ、そして心を込めて挨拶をすることです。練習中や試合で心掛けていることは、声を出すこと、量をこなしかつ質を追求すること、自分のために後悔の無いプレーをすること、負けていてもチームへの応援は手を抜かないことです。3年の先輩達が引退したときは、自分達でクラブを作っているかどうか不安でしたが、先輩たちから学んだことを思い出し、それを先輩に伝え、さらに私たち自身も今よりもっといいクラブにするためにしっかりと考えて行動し、先輩達が作ったこのクラブを守りたいと決意しています。そして、これからもたくさん練習し、技術面だけでなく精神面も鍛え、その成果を試合で発揮して良い戦績を残せるよう頑張ります。

ソフトテニス部

大阪大会

近畿大会を目指し

特訓中!!

